

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の分析

令和4年4月19日に3年生で実施いたしました「全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省より送付されました。本校の生徒の成果と課題について分析いたしました。特徴的な事項についてお知らせいたしますとともに、課題を踏まえ取り組んでいる各教科の主な改善策についてもお知らせいたします。今後も、学校全体としてさらなる学力向上に向けた取組みを推進してまいります。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国の状況との関係において、児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 調査内容

国語・数学・理科・生徒質問

### 国語

#### ● 成果となって現れたもの

「知識及び技能」の観点における「言語文化に関する事項」の正答率が高い。これは漢字そのものに対する理解が深まっていると考えられる。また、無解答が少なく、意欲的に問題に取り組もうという姿勢がみられる。

#### ● 課題と考えられるもの

考えや内容について「書く」という問いに対して、苦手としている傾向がみられた。書くという意識はあるものの、正答に結び付けるのは今一步である。

#### ● 改善策

極端に書くことに対する苦手は見られないが、それを答えに近づけていけるようになるには、課題がある。授業内での自分の考えなどを「書く」機会を増やし、また、周りに伝えることで、より一層、理解を深める。

## 数学

- 成果となって現れたもの

・データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題など「自分の考えを説明する問題」において、全国・府平均よりそれぞれ、2.9pt, 2.6pt 高かった。普段の授業の中で、根拠をもって説明する活動をすすめている結果だと考える。

・無答率が、対全国で3問、対府で1問（全14問中）と低い。これは生徒たちが何かしら答案には答えを書こうという姿勢があることを示している。

- 課題と考えられるもの

素因数分解や箱ひげ図の問題では、全国・府平均より10pt以上も差をあけて低い。知識の定着が十分でない結果が見てとれる。

- 改善策

2年次に、三角形の合同条件を合格できるまで、補習として再テストを実施していた。結果、今回の全国学テの「証明で用いられている三角形の合同条件を書く」問題は全国・府より正答率が高かった。取り組みば、知識は定着していくことができると考える。授業内での反復練習を検討し、知識の定着も同時にすすめたい。

## 理科

- 成果となって現れたもの

・4(1)生物のあしの様子と環境、6(1)化石の観察の項目で、理由を説明する設問であるが、府平均よりも上回っている。答えだけでなく、理由と関連付けて学ぶことができていると考えられる。また、3(1)の分子モデルから化学反応式を考える設問は全国平均よりも高い。視覚的にとらえ、考えることができている。

- 課題と考えられるもの

1(2)タッチパネルの実験方法を考える設問では10pt程度府平均から低い。実験操作の組み合わせを考えることは、いかに普段の授業で「自分ごと」に考えられているかが重要であるので、普段の授業の形式の課題であると考えられる。

- 改善策

全体的には、「科学的な思考」問う設問での正答率が低い傾向になると考えられる。タブレットを活用した視覚的な情報整理と、演示実験を含めた観察実験の充実を行い、知識理解に偏らない授業の組み立てがより必要であると考えられる。

## 生徒質問用紙

- 成果となって現れたもの

「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」という項目に関して、肯定的な回答が全国・府の回答よりも高い。

「学校の授業でタブレットなどのICT 機器をどの程度使いましたか」という項目に関して、「ほぼ毎日活用している」回答が高く、全国・府より約70pt 高い。

- 課題と考えられるもの

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」（学校の授業や予習や復習を含む）という項目に関して、「よくしている」「ときどきしている」と回答した生徒は、全国・府から約10pt 低い。

「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という項目に関しては全国・府から約6pt 低い。

「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」という項目に関しては全国・府から約10pt 低い。

- 改善策

学校全体で授業向上に向けた研究授業や職員研修を通して、生徒同士の対話、プレゼンなどをさらに取入れ、計画性、調査力、表現力、創造性など探究的な学びの実現をめざす。今まで以上に生徒の学びが「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実践をめざす。

昨年度より中学校の定期テストに合わせて、中学校区で自主学習強化週間「長栄がんばりウィーク」に取り組んでいる。今年度は「長栄がんばりウィーク」後に小学生は単元テスト、中学生は定期テストを実施している。発達段階に応じて自分で学習計画を立て、学習する習慣を育てている。9年間かけて取り組むことで定着することをめざす。

